

ミヤガク新報



ご意見・ご感想は、
上記QRコードから
河北新報社「学び
応援チーム」まで。

発行/宮城学院女子大学 協力/河北新報社

今号の紙面から

- ① 2020年度入学式開催へ
リモート作業でキャンパスツアー動画を制作
- ② 私のENJOY HOME・松浦朱里さん
Enjoy Home with book
～ from 小さな図書館プロジェクト～
- ③ OGトーク・高橋里沙さん
- ④ 聖書の言葉より・ひとつの体



1886年当時の記念写真。134年前は写真撮影自体が一大イベントだった。
(写真提供:宮城学院資料室)

2020年度入学式開催へ 9月9日から3日間に分散して開催

新型コロナウイルス感染症拡大により開催が見送られていた今年度の入学式を、9月9日から11日までの3日間をかけて開催することになりました。また、同時に新入生歓迎行事の開催も予定しています。4月3日にオンラインで入学許可が宣言されましたが、それから約160日を経て多くの新入生がキャンパスに足を踏み入れ、お互いに顔を合わせることにあります。

大学事務部によりまず 行動科学科・音楽科の計281名。11日は日本文学現代ビジネス学科・食品学科・英文学科・人間文化栄養学科・生活文化デザイン学科・大学院人文科学研究科・大学院健康栄養研究科の計270名を対象とし執り行われます。 感染拡大防止の観点から、式典への参加は新入生と教職員のみとし、保護者等が臨席することはできませんが、会場の模様をライブ配信する予定です。各日とも式典終了後には、学科・専攻ごとに新入生歓迎行事を開催し、新入生同士が少しでも交流を深めることができる機会を作れるよう調整をしています。

しかし、7月中旬以降、全国的に感染者が増加傾向にあるため、式典では参加者への感染予防策を徹底させる必要があります。晴れやかな入学式といえないかもしれません。が、新入生のみならず、当日は節目の日であることを実感してもらい、気持ち新たに大学生活を本格的にスタートさせてもらいたいものです。ちなみに、4月以外に

入学式を行うのは創立以来、初めての事です。本学は合衆国改革派教会によって作られたこともあり、創設された1886年から1893年の間はアメリカ式の9月入学でした。しかし、当時は式典スタイルで新入生を迎え入れるのではなく、記念写真を撮影する程度のものであったようです。いざいざ9月に新入生が集う機会を設けるのには、127年ぶりのことになりそうです。9月入学式が行われる2020年は、宮城学院女子大学の歴史の一つとして語り継がれていくことでしょう。



8月2日のオープンキャンパスはWEB開催となり、学科紹介や模擬授業の動画配信、ZOOMミーティングを使った個別相談などを行いました。

キャンパスツアーも動画で紹介することになり、MGILAC自主プロジェクト「MGPR」のみならずの協力のもと動画制作を開始しました。キャンパス内への立ち入りが制限されているためキャンパス内の撮影は限度があります。そのため過去に撮影した映像を寄せ集め、映像制作会社である懶TBCビジョンの協力のもとZOOMミーティングを行いました。

最終的なナレーションを入れる作業はスタジオで行わなければならず、MGPRの日本文学科4年鎌田陽菜さんと3年杉日奈子さんのスタジオ収録を調整できたのが、WEBサイトにアップロードする締め切りの前日でした。しかし、当日は記録的な大雨に見舞われスタジオに向かうこ

リモート作業でキャンパスツアー動画を制作



自宅にいる学生と懶TBCビジョンを結んで行われたリモート収録

とが出来なくなっていました。悩んだ結果、ナレーション入れもZOOM上で行うことにチャレンジすることにしました。通信環境の都合で音声が届かなくなったり、タイムラグが生じて2人のタイミングが合わなかったりと最初は難しい部分もありましたが、コツをつかむとお互いの呼吸も合い自然なナレーションを入れることができました。実は、ナレーション入れをリモートで行うという方法は、プロのスタッフでも経験することが少なく高度な技術であるようです。オンラインでは微妙なやり取りが難しいですが、相手のタイミングや立場に寄り添えば、より自然なコミュニケーションを行うことができるのかもしれませんが。



立ち上げや、開学70周年記念映像制

1年生では、学内で「小さな図書館プロジェクト」の

彼らと議論しあい、時には笑いあいながら約半年間、一丸となって署名運動を行ってききました。

春から大学2年生！大作家委員としての活動などができました。2年生になってからは、コロナ禍における学費減免などの学生支援を大学や県、国に訴える活動をしてきました。

彼らと議論しあい、時には笑いあいながら約半年間、一丸となって署名運動を行ってききました。

不安な日々は続きますが、今後も人との出会いを大切にしながら学生生活を送ってまいります。

私のENJOY HOME

vol.7

思いがけない出会いから

日本文学科2年 松浦朱里さん

激になり、新しい発見ばかりでした。オンライン上での出会いであるものの、ZOOMで雑談をしながら、

コロナが収束したらみんな集まろうという話なども

しています。対面に限らずオンラインでも出会いや繋

がりの大切さを実感することができました。

不安な日々は続きますが、今後も人との出会いを大切にしながら学生生活を送ってまいります。

PickUp! 河北新報



「新型コロナウイルス感染症は三つの顔を持っている」。宮城県が新規感染者の発生を知らせる記者発表資料には、必ず日本赤十字社のイラストが掲載されている。

「差別」「病気が不安」を呼び、「不安」が「差別」を生む。「差別」を恐れ、

「差別」を生む。「差別」を恐れ、症状が出ても受診をためらうこととで「病氣」の

県は個人情報保護を理由に多くを明らかにしないが、当方は感染防止の助けとなる情報を詳細に伝えたい。

河北新報報道部 相沢みづき (8月12日付 河北新報朝刊)

記者ログ「三つの顔」



記者ラム「記者ログ」は、仙台圏を駆け回る第一線の河北新報記者が取材を通じて感じたことや話を綴っています。

河北春秋

河北新報朝刊一面コラム

仙台商高の同級生だったお笑いコンビのサンドウィッチマンは私生活でも仲が良い。一方、仕事以外は口を利かないコンビもいる。とはいえず、そこはプロ。舞台では絶妙な掛け合いで観客を笑いの渦に巻き込む▼この2人も性格は違いうし、プライベートではお互いに干渉しなかった。でも、コートに立つと強かった。パドミントン女子ダブルスの「タカマツ」ペア。リオデジャネイロ五輪で日本勢初の金メダルに輝いた高橋礼華(あやか) (日本ユニシス、宮城、聖ウルスラ学院英智高出)が現役引退を表明した▼強打が武器。高校の1学年後輩で前衛が巧みな松友美佐紀との見事なコンビネーションは、長年

培ってきた信頼関係によるもの。リオ五輪決勝の最終ゲーム、対戦相手にリードを許した土壇場から逆転したプレーでも遺憾なく発揮された▼東京五輪の代表争いでは、福島由紀(青森山田高出)、広田彩花組や永原和可那、松本麻佑組(北都銀行)の後塵(こうじん)を押した。それも他のペアが2人を目標に急成長したからだと言える▼高校時代、パドミントン部でペアを決める際、2人は最後に残った。「余り物」から世界一に。会見で「幸せな現役生活だった」と語った高橋が流した涙にはやり切ったすがすがしさがあふれた。お疲れさま、そしてありがとう。

(8月22日付 河北新報朝刊)



本学は(株)東北協同事業開発と連携協定を結んでおり、「古今東北」商品の開発にも協力しています。コロナ禍でもできる活動として、商品を1点以上使用したレシピコンテストを実施しました。今回はその最優秀賞作品を紹介します。



最優秀賞

宇佐美 綾野さん(現代ビジネス専攻2年)

使った古今東北商品

秋田県産 白首大根使用 パリコリいぶりがっこ

● 材料(2人分)

パリコリいぶりがっこ(古今東北): 4cm、パプリカ: 1/2 個、ピーマン: 1/4 個、餃子の皮: 8 枚、みそ: 大さじ 1、マヨネーズ: 大さじ 1、ピザチーズ: 30g、クリームチーズ: お好みで

● つくりかた

①みそとマヨネーズを混ぜてみそソースをつくる②パプリカ、ピーマン、いぶりがっこを好みのサイズにカットする③フライパンに油をしき、餃子の皮を外側に6枚、内側に2枚並べて円状にする④餃子の皮の上に①で作ったみそソースをぬり、ピザチーズをかけて②でカットした食材をのせ、上からもう一度ピザチーズをかけ、最後にクリームチーズをのせる⑤蓋をして中火で4分間こげないように様子を見ながら加熱する



～ from 小さな図書館プロジェクト ～

今号のおすすめ「アリス殺し」

暑さで溶けそうな日々…涼しい部屋でまったり読書などいかがでしょうか？

今回ご紹介する本は、『アリス殺し』という小説。お馴染みの『不思議の国のアリス』をベースに、現代日本と融合した物語です。

主人公の栗栖川亜利は、不思議の国の夢をみます。ある日、アリスが不思議の国を散歩していると、ハンプティダンプティが墜落死する現場に遭遇してしまいます。亜利は夢から覚め、大学へ向かうと、ある研究員が墜落死を遂げていました。

まるで夢と現実がリンクしているような出来事が続いたうえに、不思議の国では、アリスが犯人として疑われてしまいます。なんとか真犯人を見つけようと奮闘するアリスと亜利。

本格ミステリーに目が離せません！



日本文学科2年 泉田 美憂さん

一休み

漫画研究部担当A



水辺の生き物と触れ合う児童

本学附属の認定こども園「森のこども園」は水の森公園に隣接した自然豊かな環境です。子育て支援事業として児童クラブを開室しており、本学の教員や学生によるプログラムが行われることもあります。



8月下旬、児童クラブに在籍する小学校低学年の児童を対象に、本学の生活環境科学研究所ミツバチ科学研究部門と連携した特別プログラム「ミヤガクの森 生き物講座」を実施しました。まずは

森にすむ希少な在来種たちを大切に守っていく必要があることなどが説明されました。実際にこれらの生物を観察したり、カメの雌雄の見分け方を学習した児童たちは「かわいい」「このカメは雄だと思っ」な

物について理解を深めます。こども園周辺の森で、在来種で準絶滅危惧種でもあるトウホクサンショウウオやドジョウ類などが発見されたこと、その一方で、外来種であるアメリカザリガニやウシガエルが隣接する溜め池に生息しているため、ど話しながら触れ合っていました。



森での昆虫採集

子どもたちは昆虫だけでなく植物にも関心を示しながら、散歩道をどんどん進んでいきます。普段遊んでいるこども園の

森は、自分たちだけでなく、生き物にとってもかけがえのない大切な場所。そんな意識が芽生えたようです。今年には小学生を対象としたイベント「サマーカレッジ」や生涯学習講座が中止となり、大学と地域との交流の機会をなかなか持てずにいます。今回のように対象者を限定した短時間のプログラムや、学外施設を利用した講座など、好奇心を大切にした学びの場を提供するにはどのような形があるか、模索し実践しています。



緑に囲まれた「森のこども園」

- Message Board -

弓道部

Instagram: miyagakukyudobu

お問い合わせ

「サウザン」に入らないうちから「まったり」な雰囲気です。

「弓道」に興味があります。

「大学でも弓道部があります。」

「生活しているだけで弓道部へおいでませ！」

「生体」は弓道部です。

「初心者のうちにはじめませんか？」

「初心者の方にも先輩がしっかりと教えています！」

「ぜひ見学してください！」

「ぜひ見学してください！」

活動日：月、水、金

活動時間：18:00～19:30

連絡先: miyagaku.kyudobu@st.nagaoka.ac.jp

書道部員募集

活動日：毎週金曜日

活動時間：18:00～19:30

場所：C610

活動内容：大学祭での出品

☆☆入部希望の方は下記のアドレスまで☆☆

メールアドレス：p-18134@st.nagaoka.ac.jp

部長：佐藤 瑞穂

入部に関する相談も随時受け付けています

お気軽にご連絡ください！

初心者歓迎！



私は大学時代に、人との関わりを大切に過ごしてきました。大学の友達や先生方とはもちろん、保健室ボランティアなどを通して現場の先生方の声を聞き、勉強に繋がっていました。大学祭実行委員として大学祭の企画や運営をしていた時期や、日常でもアルバイトなどを通して多くの方々に関わり、自分自身の視野を広げました。

今は大学時代に身につけた力を活かしながら、養護教諭として働いています。最後に後輩のみなさんへ。勉強だけではなく、ボランティアや趣味など何か夢中になれるものを見つけてください。そこから得たものは必ずどこかで役立つと思います。私も宮城学院女子大学で様々な経験をしてきたことが大きな財産となっています。みなさんの大学生活が充実したものになりますよう、応援しています！



大学での経験が大きな財産

気仙沼市立面瀬小学校 講師(養護担当) 高橋 里沙さん

(教育学科 健康教育専攻 2019年度卒)

元気が出る女性学(終)

挑戦から変化へ…歴史を知り未来をひらく

キャリア支援部長 一般教育部教授 天童睦子

「元始、女性は夫に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。」

「青鞥」の創刊号でこう記しました。明治期の日本社会は、因習にしばられ、女性の地位が低く留め置かれた時代でしたが、社会の壁に立ち向かった女性たちがいたのです。平塚ららばら(1911年、明治44年)、青鞥社を結成し、女性による女性のための文芸誌『青鞥』を発刊しました。

「青鞥」の名の由来は、ヨーロッパの女性史にさかのぼり、ロンドン貴族のサロンに集まって新しい芸術や科学を口にする、知的な女性たちが、青いストッキングを履いていたことによります。

平塚ららばらというが率いる「青鞥」は、女性の文芸運動にとどまらず、以後の女性解放運動の象徴となりました。当時の社会通念では、女性が権利を主張したり、性にかかわる発言を行うこと自体、社会規範を逸脱した言動とみなされ、「新しい女」と非難含みの揶揄にもさらされました。女性の権利獲得の道のりは険しく、日本で女性の参政権が実現したのは、第二次世界大戦後のことです。

本学で初年次全員が学ぶ「女性と人権」の講義を担当して数年、ジェンダーを知っている比率は年々上昇し、性的マイノリティの人権保障への関心も高いです。とりわけ学生のみならず、真剣さを増すのは、性支配や社会に構造化された性差別が遠い過去の話ではなく、今なお身近に存在することに自ら気づくときです。

本連載の初回でも紹介した、世界経済フォーラムのジェンダー格差指数を説明したところ、ある学生から政治、経済、教育、健康の4分野のうち、教育では日本はトップレベルなのでは、と質問がありました。実は、教育の項目で日本は、識字率、初等教育の指数では男女格差なしですが、中等教育、高等教育段階では100位を下回ります。いいかえれば、より段階が高い教育面でのジェンダー平等に向けた世界の動きに比べて、日本が遅れをとっているともいえるのです。

ジェンダー平等社会の実現の鍵は教育にあります。それは一朝一夕にはいかないものの、女性のエンパワメントに不可欠の要素です。現代社会のジェンダー問題を読み解くための女性学の意義を再確認し、これまで声をあげにくかったマイノリティの人々を含め、すべての人にとって、よりよく生きる未来をひらく鍵を考えていきましょう。

挑戦(チャレンジ)は変化(チェンジ)の種。その種に水を与えるのは、あなた自身の学びの力なのです。(終)



授業風景: キャリア形成論(4年次選択科目) 大手出版社社長の方々(右の二人)をゲストに迎えて



ひとつの体

宗教センター長 一般教育部准教授 栗原健

本コーナーもあと2回。どうしても紹介しておきたいのが、新約聖書の「コリントの信徒への手紙」第12章12-26節にある伝道者パウロの言葉です。全部を載せることは出来ませんが、特に大切な部分を今回と次回に2回に分けて紹介します。

「体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。多くの部分があっても、一つの体なのです。目が手に向かって『お前は要らない』とは言えず、また、頭が足に向かって『お前たちは要らない』とも言えません。それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。」(一部略)

つまり、「いろいろな人間なんて一人もいない」ということです。

人間は一つの体のようであり、耳や目、手足のように、全ての人がそれぞれの役割を果たしている。その一部でもあっても欠かすことはできない。一見すると弱い立場にある人、大きな役を果たしていないように見える人が、実は重要な存在であることもある。その役目は神にしか分からない。そうである以上、どの人のことも軽く見てはいけません。聖書の極意です。

このような視点で社会を見て行けるように、大学で学んで行きましょう。

- Message Board -

YWCA 大学 ボランティア活動 毎週火・木曜日のお昼休み キリスト教センター(礼拝堂内) 聖書研究

手話部 活動日: 月・木の昼休み(変更あり) 活動場所: C406 活動内容: 簡単な手話の勉強や歌に手話をつけて手話ソングとして大学祭などで発表しています! 私たちと一緒に楽しく、手話を覚えましょう! 質問等は f-18155@st.mgu.ac.jp まで

文芸部 活動内容: 活動日: 毎週水曜日 部誌『ハリケーン』『つむじ風』の発行 部誌の合評会 等々 詩・短歌・エッセイ等もOK! 勿論「書いたことがない」という子も大歓迎! 興味のある人は whitesong0807@yahoo.co.jp まで